

令和7年度 第2回 学校運営協議会 会議録

1 日 時 令和7年12月11日(木)15:00~16:10

2 場 所 城南高等学校 大会議室

3 参加者数 13名

4 会次第

(1)委員長挨拶

(2)校長挨拶

(3)報告

①令和7年度の11月末までの学校行事等について

教頭が、次の項目ごとに、スライドショーにしてナレーションを添えて説明した。

・新年度スタート

・生徒会・部活動

・グローバル教育

・地域とかかわる

・その他の行事(修学旅行や遠足、学校祭、進路・人権・薬物乱用防止等の講演会)

・未来の城南生へ

・松柏会活動

②創立150周年記念式典について

同じく、教頭がスライドショーにより、第1部、第2部、第3部に分けて説明した。

・第1部:開会セレモニー

司会や開会宣言も生徒が行うなど、生徒参画型の式典を開催することができた。

また、本校の田村純子教諭より記念制作作品として、大谷焼の「Phoenix」が寄贈された。

「Phoenix」は、本校正面玄関に展示しており、本校の新しい顔となっている。

・第2部:過去と未来を結ぶ

本校の150周年の歴史を振り返るスライドショー

を、生徒のナレーション付きで上映、続いて、各界で活躍する卒業生9人によるビデオレター「城南クロストーク」を視聴した。

最後に、日本生命保険相互会社代表取締役会長の清水博氏より、「城南から世界へ～次の150年を拓くチカラ～」と題した力強いメッセージをいただいた。



・第3部：アニバーサリーパフォーマンス

150年の青春をテーマに、書道部、吟詠剣詩舞同好会、ダンス同好会、吹奏楽部がコラボショードを披露。クライマックスは吹奏楽部の伴奏のもと、「開校記念日の歌」「旧制徳島中学校校歌」「徳島県立城南高等学校校歌」の校歌三部作を斉唱し、拍手の中で幕が下りた。



③SSH活動の現在ならびに今後の展開について

近藤SSH推進課長が、本校の探究活動に係る現状ならびに「イノベーター人材育成のため、社会を変えるインパクトを経験すること」を目的に掲げた、本校におけるSSHの3本柱についてプレゼンテーションを行った。

[3本の柱]

- ・ジェネラリストの育成(地域・学校等が持つ課題の解決…地域等連携)
- ・アントレプレナーシップの育成(企業が持つ課題の解決(共同開発・PR・イベント等)…企業連携)
- ・スペシャリストの育成(サイエンス等の課題研究)

《具体的活動例》

・3学期には、1年生を主たる対象に、第一弾は「大学からの発信」、第2弾は「地域・企業からの発信」として、各回20名(団体)程度をお招きし、生徒が希望する分野のお話を聴かせていただく会を企画している。

(4)協議・意見交換

・【意見】NPO法人でも、高校生や地域の方々と一緒に解決していく課題がたくさんあり、連携が深まっていくことを期待している。

・【意見】卒業生で、自らの活動や仕事と城南生とのコラボレーションに関心を持っている人は少なくない。FSなどの行事に、何らかの形で卒業生がかかわれないか。

・【意見】高校生の情報発信力に大いに期待しているため、行政や企業が高校生にプレゼンテーションを行える機会があるのは効果的だ。

・【意見】地域と高校生がかかわりあえるような機会の創出が必要。

・【提案】中学生にも、150周年記念式典で制作した「城南クロストーク」を視聴できる機会を創ってはどうか。

・【質問】海外研修に参加した生徒の気づきや学び(例えば、「台湾では実験内容も含めてすべて英語でやり取りをしている」)を、どう生かしているのかを伺いたい。

→「サイエンス×グローバル化」はSSHの目標の一つであり、本校でも『サイエンスイングリッシュ』などの学校設定科目を設け、取組を強化している。また、台湾研修に参加した生徒は研究成果発表会等で報告する機会を設けている。今後は、留学等を経験した生徒に対しても、成果を発表する機会を設け、刺激を共有し、広げていきたいと考えている。

・【要望】例年、前日祭で行われている「着せ替えパフォーマンス」を、今年度のように体育祭で実施すると、保護者も参観できるし、ケーブルテレビでの放映もあり、有り難い。

・【助言】生徒の地域課題への取り組みを称賛に留めず、実現可能性の観点から正当に評価することが重要である。そのフィードバックを通じて、生徒自身がアイデアの未熟さを客観的に認識することは、「学問への動機付け」を高める契機となる。その不足を補うために大学等で学びたいという意欲を育み、「現実的な課題に根ざした学びの循環」を構築することが、生徒のキャリア形成を真に支えるものと考える。

(文責 大西)